

科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業
次世代研究者育成プログラム
(実施期間：平成 26～令和 3 年度)

コンソーシアム名：京阪神次世代グローバル研究リーダー育成コンソーシアム
(The Keihanshin Consortium for Fostering the Next Generation of
Global Leaders in Research (K-CONNEX))

代表機関：京都大学（総括責任者：湊 長博）

共同実施機関：大阪大学、神戸大学

取組の概要

近年、競争的資金等により雇用されるポストドクター等の若手研究者が増加し、腰を据えて研究する機会が奪われ、若手研究者の育成基盤が脆弱化しているとの指摘がある。これらの状況を打開するために、世界水準の優れた研究型総合大学（Research University）である京都大学、大阪大学、神戸大学をコア機関として、若手研究者育成のコンソーシアムを構成する。本コンソーシアムにおいては、「学問とは真実をめぐる人間関係である」、つまり人との交流を通じての学びを前提とし、国内最高峰の研究環境の下、次代を担う優秀な若手研究者の確保・育成を戦略的に行う。具体的には、①若手研究者の安定的雇用、②海外機関、産業界、異分野の研究者等との交流に基づく多様な経験を積む研鑽の場・プログラムの提供、③手厚い育成支援体制、研究支援体制を三位一体で構築し、独創的で世界を牽引する次世代グローバル研究リーダーの育成を目指す。

(1) 評価結果

| 総合評価 | 進捗状況 (全般) | 進捗状況 (システム構築) | 進捗状況 (取組の内容) | 体制構築 | 今後の進め方 |
|------|--------------|------------------|-----------------|------|--------|
| A | a | a | a | a | a |

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

運営協議会に対する 3 大学の参加意識は高く、効率的な運営が行われ、外部評価委員会は有効に機能したと認められた。研究者育成に関わる種々の研究サポート体制は充実しており、特に URA による研究サポート体制は評価できる。ファーストコンタクトプログラムの設定により産学を越えたコミュニティ形成がなされ、異分野間・産学間の知識交流等は有益と認められた。多くの若手研究者がキャリアアップを果たしていると認められた。今後一層の、連携しての事業継続が期待される。

・進捗状況（全般）：実施機関は、京阪神次世代グローバル研究リーダー育成コンソーシアム（K-CONNEX）を設立し、これを中心に事業が実施された。公募・選考には異分野および産業界の視点を総合的に勘案し、厳正な評価により雇用の決定をしたことは評価できる。平成 30 年度までに、所期の目標の若手研究者の採用を前倒して実現した。安定的雇用の確保にも取組み成果が認められた。

・進捗状況（システム構築）：定期的な成果報告会において、各研究者の研究進捗に対して有識者

から研究進捗に資するコメントのフィードバックを行われた。研究進捗に資する効果的な予算配分を実施したと認められた。領域ごとに産学間の若手研究者コミュニティ拡大を意図したシステムを構築し、知識交流を活発化させる方策は評価できる。10名の海外在外研究活動を支援し、流動性を高めた。しかし、補助事業期間（8年間）の後半3年間については、活発な事業活動が継続したとは言い難い。

・**進捗状況（取組の内容）**：国際公募への応募者に対して、一次（書面）審査、二次（面接）審査、三次（教授会による受入）審査を実施して、公正に最終候補者を決定したと認められた。メンター、URA等が配置され、適切に研究環境が整備され、若手研究者は外部資金獲得に成果をあげている。若手研究者には専属URAによるサポートが行われ、合同リトリート、ファーストコンタクトプログラム等の優れた取組が行われた。ポータル利用により、支援プログラムの利用がワンストップで行える仕組みを整備したことは評価できる。

・**体制構築**：運営協議会に対する3大学の参加意識が高く、運営協議会のもとに運営統括会議、運営会議、推進会議、選考会議等が配置され、効率的に事業が進行した。外部有識者によって構成される外部評価委員会からは本事業の活動内容に対する評価と、改善に関する助言が行われ有効に機能したと認められる。女性研究者の積極的な応募を促す努力によって女性採用者を一定数確保したことは評価できる。

・**今後の進め方**：京都大学においては「世界視力を備えた次世代トップ研究者育成プログラム(L-INSIGHT)」に発展的に引き継がれており、神戸大学では神戸大学独自のテニュアトラックプログラム、大阪大学では国際共同研究促進プログラムと相乗させ、若手研究者の育成に取り組んだことは評価できる。しかし、継続的な連携については不明確な点が多く、構築したシステムの自立的運用には課題が認められる。